

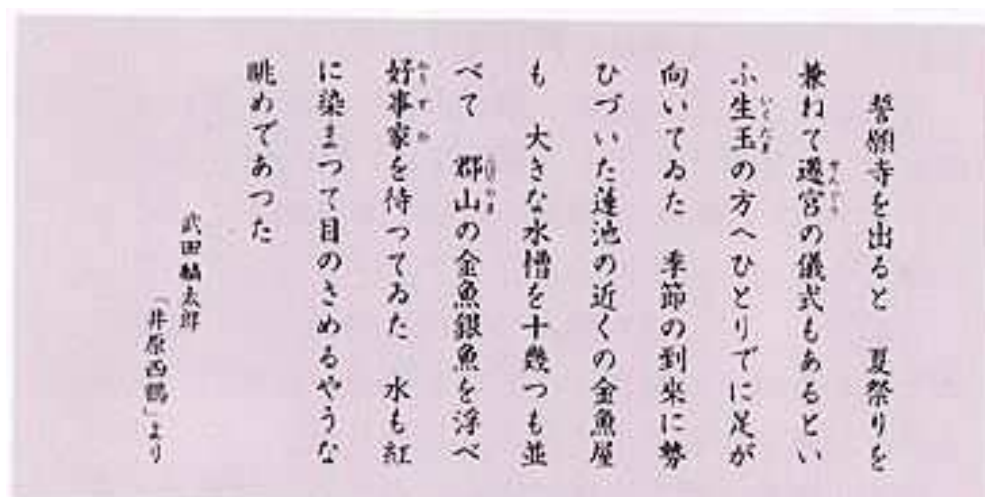
8 武田 麟太郎文学碑

■場所

中央区上本町西四丁目
誓願寺門前

■交通

地下鉄:谷町九丁目
(8号出口)



武田 麟太郎(1904年～1946年)

武田麟太郎は、明治37年(1904年)大阪市南区日本橋筋東一丁目(現浪速区日本橋東一丁目)に生まれ、昭和21年(1946年)3月31日死去した。

安立尋常高等小学校(現安立小学校)を卒業し、今宮中学校(現今宮高等学校)、第三高等学校(現京都大学)を経て、東京帝国大学文学部仏文科にすすんだ。

常々、小説家になると母に告げ、「岩野泡鳴くらいになるならいいが、むずかしかろうから高等文官試験をとって平凡確実なコースを」と諭された。しかし、そのすぐ後母の死にあい、そ

の夜、涙をながしながら小説家になろうと決意した。

三高時代、同人誌『真昼』を発刊。東大入学後は、同人誌『辻馬車』に参加し、旺盛な文学活動に入った。

昭和4年、『文芸春秋』に「暴力」を発表し、プロレタリア作家としての地位を築き、新しい技法を駆使した作品を発表した。

のち、政治主義的傾向から脱し、苦悩の中から、井原西鶴に学んだ創作方法により、「日本三文オペラ」「銀座八丁」など、自ら「市井事もの」と呼んで時代の庶民風俗の中に、新しいリズムを追求する作品を発表し、独自の作風を確立した。

昭和8年、林房雄、川端康成、小林秀雄らと『文学界』を創刊。同11年『人民文庫』を創刊、主宰するなど、当時の文壇にあって主導的役割を果たした。

「井原西鶴」は、昭和11年、『人民文庫』に連載された作品で、同じ大阪の生まれである井原西鶴の生活と行動を通じ、自らを語り、自己の生活を熟視するものとなった作品といわれている。

墓所は、岡山県浅口郡鴨方町の明王院。東京都秋川市菅生の西多摩霊園には、分骨埋葬されている。